

審査の結果の要旨

氏名 江 梓瑋

提出された論文「Spontaneous Development of Entertainment Environment for Elderly in Taipei（台北における高齢者の娯楽環境の自然発生的展開）」は、台湾台北市における高齢者の娯楽環境の自然発生的な形成のメカニズムを明らかにし、単なる公的高齢者施設ではない、高齢者のための新たな居場所の形成に資することを目的とした研究である。台湾は1993年に高齢化社会に突入し、2018年には高齢社会、2025年には超高齢社会になることが予測されている。こうした中、高齢者の娯楽環境はフォーマルな施策ではなかなかとりあげられないものに、前期高齢者のライフスタイルにおける生活の質を高めるものとしての娯楽環境がある。娯楽環境は単に娯楽サービスを提供するだけでなく、高齢者個々人が寄り集まり、社会的コンタクトを行う場としても重要である。本研究では、台湾における高齢者のための娯楽環境の展開の過程を俯瞰し、その中で歴史的に台湾独自に展開してきたいくつかの娯楽の場面の要素があることを明らかにした上で、台北市龍山寺前広場の地下に建設された商店街（Longshan Underground Mall）が自然発生的に老人のための娯楽的環境に展開していった様子をつぶさに観察し、そこで起きている様々な人々の行動や交流の在り方の多様性を、同市内の他の場所のカラオケ店や公園などで繰り広げられる、同種の行動や交流と比較分析することで、高齢者のための自然な形での娯楽環境が成り立つための環境デザイン上の諸条件を明らかにし、建築的モデルを構築することを試みている。

本章の構成は、以下のとおりである。

第1章では、既往研究の分析をもとに、本研究の背景、目的、方法論を論じている。

第2章では、台湾文化における娯楽環境の社会的背景に焦点を当て、これまでに展開してきた娯楽施設や娯楽の場の変遷と、現在の状況と課題を明らかにしている。特に、本研究における分析対象となった、Longshan Underground Mall、Hon Bao Chang、Twatiutia、Nakashi、Karaoke と呼ばれる5つの施設の詳細な歴史と空間の記述が施されている。これまで、建築学ではこうした娯楽施設の計画論はほとんどなされなかったといっておく、台湾における娯楽施設計画論の基礎的資料がここに提供されている。

第3章では、5つの施設を対象に行った調査結果が示される。対象となるデータは、施設の利用者や経営者、関係者に対する延べ100名を越す人間に対するインタビュー記録、各施設の建築的図面収集、空間の使われ方に関する行動観察調査によって得られている。本章では、綿密な環境行動調査によって得られた膨大なデータを、高齢社会における環境デザイン構成の計画論の立論に活かすべく、経済性や地域性などの、5つの指標を用いて整理、検討している。

第4章では、第3章でまとめた5つの施設における環境行動調査データをもとに、高齢社会における環境デザイン構成の計画論において不可欠な要素を、5つの指標をベースに導き出すことを意図している。これに加え、各対象における空間の質に関わる観察調査、すなわち人間行動観察、人間集団の離合集散の状況記録、家具の配置の記録によって得られたデータをもとに、5つの施設における利用者個人の間形成される人間関係の諸相を明らかにすることで、今後高齢者間のネットワークが自然発生的に形成されやすい、環境デザイン構成の計画論を構成するエレメントが導きだされている。

第5章では、Longshan Underground Mall をベースに、第3章、第4章で得られた知見を踏まえ、次世代のネットワーク形成型の高齢者娯楽施設のモデル構築がなされている。そこで重要な点は、娯楽施設利用者が単なる一ユーザーとして捉えられるべきではなく、特定の社会的関係を有するネットワーク形成者にとらえるべきことであるとしている。さらに、そこに必要とされる建築デザインを特徴づける質が、「ポリモダルな居場所」の形成であることを提案している。

このように、本研究はこれまでの機能別施設の中で計画されてきた種類の空間とは異なる、高齢者の自然発生的な娯楽環境の形成過程を分析しながら、次世代のネットワーク形成型の高齢者娯楽施設のモデル構築を行った点で評価される。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。